

コロナ後の世界で進む医療業界の新たな潮流

◆コロナパンデミックが医療業界に与えた影響

COVID-19が2019年12月に中国の武漢市で確認されてから4年が経過した。空前の規模となったパンデミックに対抗するため、それまで一般的でなかった医療技術（mRNAワクチンやオンライン診療）が用いられ、急速な発展を遂げた。

一部のヘルスケア企業は、巨額の収益を手にしたが、COVID-19の流行が収束し、ワクチンや治療薬に対する需要は急速に減少した。23年10月、ファイザーは、ワクチンの在庫処分や製造設備の減損などで、35億ドルのコスト削減策を実施すると発表した。一方、コロナパンデミックをきっかけに変化・発展した医療技術を獲得、あるいはビジネスチャンスとする動きも加速している。

◆遺伝子治療薬や核酸医薬の青田買いが進む

mRNAワクチンやウイルスベクターワクチンは、ウイルスのタンパク質をコードするmRNAやDNAを接種し、体内にてウイルスタンパク質を生産させて免疫することから、遺伝子治療薬・核酸医薬の一種といえる。世界の数十億人に使用され、有効性と安全性が確認された。また、これらのワクチンは、遺伝子治療薬や核酸医薬に用いられるリポナノ粒子やウイルスベクターの急速な進歩を促した。コロナパンデミック以降、大手製薬企業による、遺伝子治療薬や核酸医薬の技術や初期開発品を有するベンチャー企業に対する巨額なM&Aが発生している（表1）。

表1 22年以降に発表された遺伝子治療薬・核酸医薬に関する主なM&A

モダリティの種類	企業名	国名	時期	買収・提携の内容	金額(マイルストーン払いを含む)	代表薬物の開発段階
遺伝子治療薬	Eli Lilly	米国	2022年10月	Akouosを買収	6.1億ドル	Phase I
	Regeneron		2023年8月	Decibel Therapeuticsを買収	2.13億ドル	研究・前臨床
	協和キリン	日本	2023年10月	Orchard Therapeuticsを買収	4.776億ドル	販売中
遺伝子改変細胞	AstraZeneca	英国	2023年6月	Quell Therapeutics と提携	20.85億ドル	研究・前臨床
核酸医薬	Eli Lilly	米国	2022年12月	ProQR Therapeuticsとの資本関係を強化	37.5億ドル	研究・前臨床
	Merck & Co		2022年8月	Orna Therapeuticsと提携	2.5億ドル	研究・前臨床
	Regeneron		2022年4月	Checkmate Pharmaceuticalsを買収	2.5億ドル	研究・前臨床
	Abbvie		2023年1月	Anima Biotechと共同開発	5.8億ドル	研究・前臨床
	アステラス製薬	日本	2023年5月	IVERIC Bioを買収	59億ドル	販売中

(各社発表資料を元にARC作成)

◆大手製薬会社は後発薬・一般薬事業を切り離し

一方、大手製薬企業による後発医薬品や大衆薬事業の売却や切り離し（スピンアウト）の動きも加速している（表2）。各社、新たなモダリティ（創薬基盤技術）や画期的医薬品の開発に経営資源を集中する。

表2 22年以降に発表された後発医薬品・大衆薬事業の売却やスピンアウト

企業名	国名	時期	売却・スピンアウトの内容
GlaxoSmithKline	英国	2022年7月	大衆薬部門をスピンアウト
Novartis	スイス	2023年6月	眼科領域事業をBausch + Lombに売却
		2023年9月	後発薬部門のSandozをスピンアウト
Sanofi	フランス	2023年10月	24年第4四半期中に大衆薬事業のスピンアウトを計画
Viartis	米国	2023年10月	一般薬（OTC）事業と女性向けヘルスケア事業の大部分、インドでの原薬事業を売却

（各社発表資料を元にARC作成）

◆モダリティの変化に合わせて開発製造受託ビジネスも変化を迫られる

遺伝子治療薬や核酸医薬には、低分子医薬や抗体医薬とは異なる製造設備が必要となる。そのため、医薬品開発製造受託業（CDMO）においても、遺伝子治療薬や核酸医薬に特化したCDMOに対するM&Aの動きが活発化している（表3）。

表3 22年以降に発表されたCDMOに対するM&A

企業名	国名	時期	売却・スピンアウトの内容	買収金額
Merck KGaA	ドイツ	2022年1月	mRNAワクチンなどの遺伝子治療に用いられる質ナノ粒子（LNP）製剤に特化したCDMO、Exeleadを買収	7.8億ドル
味の素	日本	2023年11月	遺伝子治療薬開発製造受託機関（CDMO）Forge Biologicsを買収	5.54億ドル

（各社発表資料を元にARC作成）

◆巨大IT企業の医療への進出が加速

コロナパンデミックは、オンライン診療や医療ビッグデータの利用を促した。生成AIの急速な普及もあり、ビッグテック企業の医療への進出が加速している。

アマゾンには、22年7月にオンライン診療を展開するOne Medicalを39億ドルで買収した。23年11月には、One Medicalのサービスをアマゾンプライム会員に安価で提供し、3つの病院チェーンとの提携を発表している。一方、マイクロソフトは、23年7月にオンライン診療サービス大手のテラドックとの提携関係の強化を発表した。ビッグテック企業による医療への進出が進む。 【毛利光伸】